

第4章

3. 災害ボランティアとしての活動①

副読本
34～35ページ

年 組 番 氏名

1 災害後、ボランティアのニーズは時間の経過とともに異なってきます。想定される主なニーズから自分たちにできることを考えてみましょう。

時期と時間経過	災害ボランティア活動に関する被災地の動き	想定される主なニーズ
緊急対応期 発災から2～3日後	地元ボランティアの活動開始 ○避難所の開設 ○災害ボランティアセンターの開設	●避難所の開設手伝い ●災害ボランティアセンターの運営支援
復旧期 震災なら数か月後 水害などでは数週間後	被災地ボランティアの活動のピーク ○避難所の本格運営 ○自宅への帰宅 ○被災者それぞれの生活課題の明確化	●避難所の運営手伝い ●物資調達・運搬・仕分け手伝い ●屋内外の片付け、引っ越し手伝い ●被災者の話し相手 ●被災者ニーズの把握・掘り起こし
復興期 震災なら1年後 ～復興まで	地元住民・ボランティアによる活動に移行 ○仮設住宅開設 ○災害ボランティアセンターの閉鎖	●要援助者の日常生活支援 ●被災者の相談相手 ●被災地のコミュニティづくり・まちづくり活動の支援

	高校生でも(だから)できること	大人になってできること
緊急対応期		
復旧期		
復興期		

2 県外の高校生の支援の事例から、県外や国外で災害があった際に、自分たちができることを考えてみましょう。

.....

.....

.....

.....

